

○笠井委員

日本共産党の笠井亮です。去る六月十一日、十二日の両日の日朝実務者協議で、北朝鮮政府は、拉致問題の解決に向けて再調査を行うこと、よど号のハイジャック実行犯の引き渡しに協力することを表明し、日本政府は、北朝鮮への制裁措置の一部解除を表明した、発表したわけでありませぬ。これは日朝問題の解決にとって前進の一步だと考えております。

そこでまず、町村官房長官、今回の日朝協議の結果について、先ほど来ありましたが、要するに、これまでと比べて新しいところは何なのか、何が新しくてこのような結果になったのか伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

◆町村国務大臣

北朝鮮側は、今までは拉致問題は解決済みであるということを一貫して発言をしてきたわけですが、今回は、北朝鮮側は、拉致問題の解決に向けた具体的行動を今後とるための再調査を実施する。そして、これは解決済みとした態度、立場を変更したものであるということでありまして、拉致問題解決に向けたプロセスを改めて動かし始める上で一定の前進であると私どもは考えているわけでございます。

したがって、今後、迅速な調査が行われて、拉致被害者の帰国を含めて、拉致問題の解決に向けて早期に具体的な結果が得られるよう努力し、また期待をしているところであります。

○笠井委員

今ありました、北朝鮮側が、これまで拉致問題は解決済みとしてきた立場を変えて、まだ解決していないという立場に転じて再調査の実施を約束した。したがって、いわば対話の糸をつなぎ直した、改めて拉致問題解決に向けての、動かし始める上で新たな入り口に立った、いわばそういう意味である、そういう結果だったということではよろしいのでしょうか、官房長官。

◆町村国務大臣

実際、このところ全くやりとりがなかった、なかったとはあえて申し上げませんが、少なくとも表立った行動というのは昨年以來なかったわけでありませぬ。

今回、そういう意味で、委員御指摘のように、話し合いの糸口といたしまししょうか、開けたということで、別にこの先のことを樂觀も悲觀もしているわけじゃございませぬけれども、やはりそれは、圧力をかけ続け、かけ続け、かけ続け、先ほどどなたか委員が言っておられたように、体制崩壊を求める、そういう方法論も、一つはそれはあるのかもしれませんが、私どもは、やはり外交交渉、話し合いという中で答えを出していくということしかないんだろうと思っております。もちろん、その間には圧力があり対話があり、対話があり圧力がありということは、そのコンビネーションであり得ると思っております。

いずれにしても、話し合いということが今回始められる、そしていい結果をもたらすように努力をしていかなければいけない、かように考えます。

○笠井委員

もう一点、官房長官に伺いたいんですが、この間、今もお話がありましたが、こういうことになったということについて言いますと、六カ国協議、六者会合の枠組みと努力があつて、北朝鮮による核開発計画の申告等をめぐっていわば重要な段階に来ているという中での今回の日朝協議でありませぬ。

そういう点で言いますと、北朝鮮側が従来の拉致問題は解決済みという立場を変更したわけ

ありますけれども、どうして彼らは変えたというふうにお考えでしょうか、その辺について伺いたいと思うんですが。

◆町村国務大臣

これは、もとより我が国は一貫して、この問題、拉致問題の解決、そして最終的な日朝国交正常化というプロセスに入っていきたいということは申し上げてきたわけでありまして、そのことを一つ具体的にあらわしたのが日朝平壤宣言であった、こう思っております。

また、日本だけの力では至らない点も確かにあったかもしれません。そういう意味で、私どもは、この六者協議の枠組みというのは有効である、二〇〇五年九月の六者会合共同声明を初めとする累次の成果文書の中でも、日朝関係の改善ということがうたわれております。それもありまして、米韓中ロ、こうした国々がそれぞれの立場から北朝鮮に対して働きかけをしてくれているわけございまして、そのことを私どもも感謝しているところであります。

しかし、なぜ北朝鮮が今度こういう行動をとったか、その本当のところは私どもには必ずしもわかるわけではないわけではあります、やはり、今ここで日本との関係を改善し、拉致問題を解決していこうということが、そのことがやはり彼らの国益にも合致をするという判断がなければ多分こういう、今回のような話し合いの結果にはなってこなかったんだろう、こう思いますから、彼らにとっても、言うならば利益があるという判断をしたんだろうということは想像するにたかくないところでございます。

○笠井委員

そこで、齋木局長、一言一挙手一投足が非常に、大変神経を使う交渉で、お疲れさまでした。

今回の協議の結果、北朝鮮側が拉致問題の再調査の実施を約束したわけではあります、これを今までの繰り返しに決して終わらせない、それをきちっと保証していく上でこれまでと違う新たなものが今回の結果について言えばあるのか。あるとすれば、今後、再調査をめぐる具体的対応等でそれをどうやって生かしていくというおつもりなのか。交渉の当事者として伺いたいと思うんですが、いかがでしょうか。

◆齋木政府参考人

私の方からは、北朝鮮側がもう一度調査をやり直すということの約束を取りつけたときに、これまでの調査は二回行われた、しかし、その調査の内容、調査の結果について、御家族の方々はもとより日本政府としても全く納得していないし、受け入れているわけでもない、そういうことはもう既に北朝鮮側に対しても累次伝えているところである、したがって、もし今回もう一度やり直すということであるならば、それは今までのようなことの繰り返しであっては絶対にいけないということを改めて強く申し入れました。

そして、どういうやり方で今度調査を進めていくのかということについて、これは今までは違うやり方をぜひやるべきだということを私は申し入れましたけれども、北朝鮮側においても、国内に持ち帰って、どういう方法でやるのかということについて恐らく今検討していると思いますが、実際にその調査をもう一度、実施に踏み出す前に、我々の方からも、日本側としてはこういう点についてもきちっとやるべきであるということも含めて、いろいろと考え方を先方に対して伝える、そのための折衝の機会を持たねばならないと思っております。

したがって、そういう意味での新しいやり直しの調査、これが、先ほど申し上げたように被害者の方々の帰国につながるようなものでなきゃいけない、そしてまた、それが拉致問題の最終解決につながるものでなきゃいけないという私の方からの念押しに対して、先方もこれを確認したわけでございます。

○笠井委員

北朝鮮側が、再調査について、生存者を発見して帰国させるための調査である必要があるとの日本側の主張を認めているということでありますけれども、それを実効あるもの、今も言われました、日本が納得できるものにしていく上できちっとされなければならない問題というのが現時点で具体的にあるんでしょうか。あるいは、いろいろ考えているという段階にあるのか。あるとすればどう解決するかとか、端的に、もしあれば、その点、いかがでしょうか。

◆齋木政府参考人

もちろん、私ども、いろいろと今考えをめぐらせておりますし、一定の考え方は固まりつつありますが、これは政府の中で上の方としっかりと御相談申し上げて、その上で確定することになっております。

○笠井委員

最後に、官房長官に伺っておきます。今回の協議の結果を踏まえて、日本側としてはでは何をするのか、再調査に関与していく上で日本側として努力をすることは何なのか、きちっとした再調査の保証になるいわば外交戦略ということも含めて所見を伺いたいと思うんですが、いかがでしょうか。

◆町村国務大臣

国内的な措置、対外的な関係、両方あると思います。

国内的には、今、齋木局長がお答えをしましたように、まずこの再調査のやり方、これについて、本当に実効のあるもの、かつ迅速な答えが出せるような再調査のやり方をまず国内で詰め、先方とも詰めてやっていくということをしなければなりません。また、先方がどういう対応してくるかということを想定しながら、我が方の制裁措置の緩和の仕方といったようなことも、まだ時期が早過ぎるかもしれませんが、頭の体操だけはやっておく必要があるのかな、こう思っております。また、その際に、先ほど来各委員から御指摘がありました、本当に人道物資であるのかどうかといったようなチェック体制も含めて詰めていく課題があるのかなと思っております。

そして、もとよりこれは六者協議のフレームワークということが大切であることを先ほど申し上げましたが、関係国との協調のもとで日朝関係を前進させていくということが大切でございますので、もちろん、核、ミサイルという二つの大きな他の問題もあるわけでございます。これについても、今、第二段階の出口に差しかかりつつある状況であります。日本は、やはり厳しく、北朝鮮側がこの完全な申告に向けて、本当に完全という名にふさわしい申告内容になっているかどうか、日本としても独自のチェックをしますし、また独自の主張をアメリカ等に対してもやっていますところではありますが、そうしたことをやっていかなければいけないだろう、こう思います。また、日朝間での調整というのも、先ほど申し上げました調査のやり方等々について、今後さらに密接な協議、調整を図っていかなければいけない。

やるべきことは確かにたくさんあるな、こう思っております。

○笠井委員

今回の日朝問題の解決にとっての前進の一步を、両国政府が日朝平壤宣言に即して、諸懸案の包括的解決、日朝国交正常化につなげる外交努力が引き続き必要だと思っております。そういう方向で実ることを強く希望しまして、質問を終わります。